

2015.9.3

第26回 廃棄物資源循環学会 研究発表会 於: 九大伊都キャンパス  
企画セッション G9 若手の会

若手の会セミナー  
「廃棄物業界の若手の連携ワークショップ」  
開催報告

～若手はどんな問題意識を持っているか？～

若手の会事務局

# 本日の内容

1. セミナー開催概要
2. グループワーク概要  
趣旨・方法  
参加者専門性
3. 若手の問題意識・興味の類型結果
4. グループ発表結果
5. 参加者からの意見(アンケート結果)

事務局が新体制(H25～)

若手の会を盛り上げるどんな活動をすれば良いか？

第一回セミナー(東京)、民間企業の方との意見交換

セミナー(若手の会)の目的

- ・ 同じ(廃棄物？)業界にいるのに、普段はお付き合いのない若手とのつながりを作ること
- ・ 同世代から良い刺激を受けること
- ・ 若手から学会に対して新たな活動を提案

# 1. 1セミナー概要

## 開催日時

2015年6月27日(土) 13:00～17:00

## 場所

東京(ハロー貸会議室八重洲フィナンシャルビル2階A室)

## 実施内容:

学会についての紹介

事業や研究の紹介(話題提供)

グループワーク(約55分)

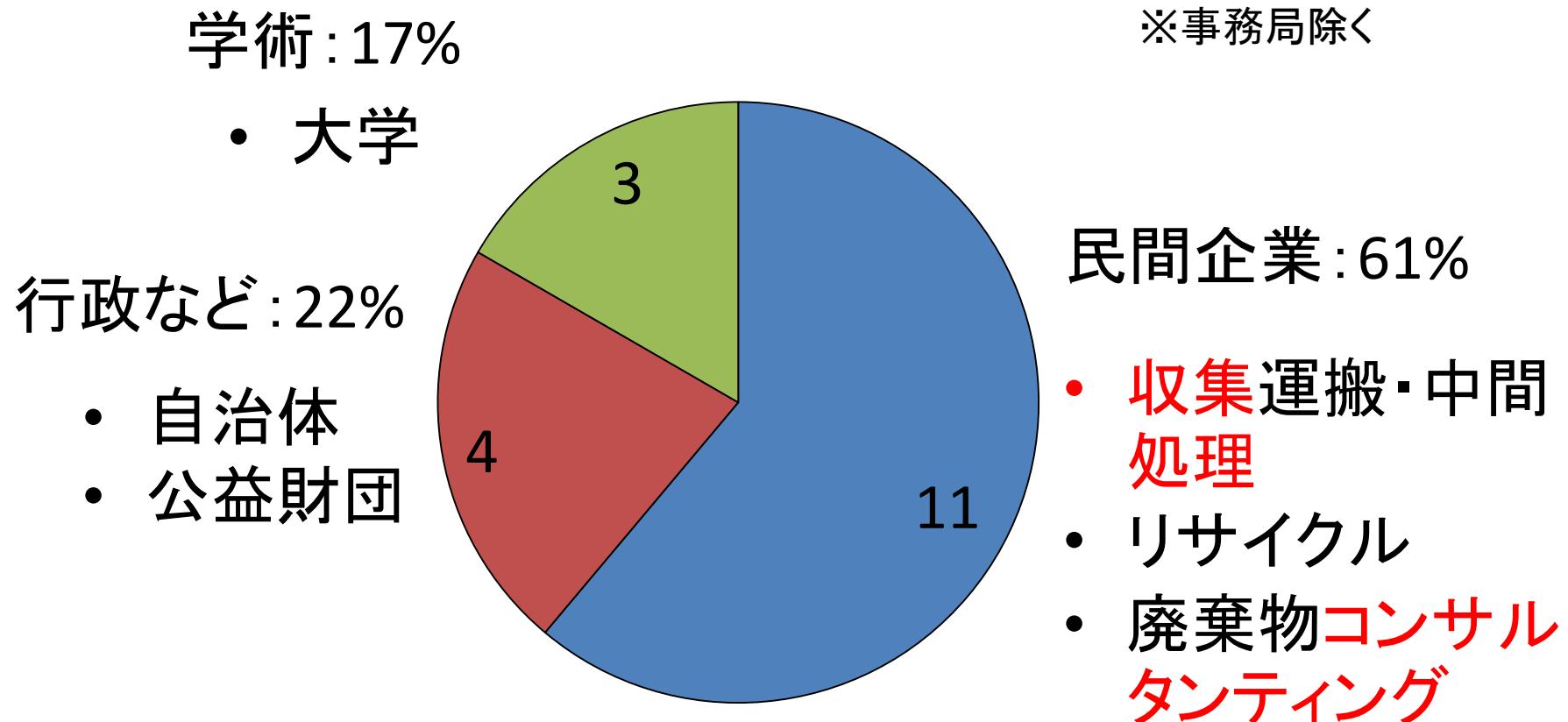
## 参加者数:

18名

(+若手の会事務局6名)



## 1. 2 参加者所属



# 1. 3セミナーの様子(学会紹介・話題提供)



## 2. 1 グループワークの趣旨

- 資源循環・廃棄物処理の問題/関心にもとづいて、若手メンバーの専門性をマッピング
- 1. 若手の**関心・問題意識**の整理と共有
- 2. 若手の**専門性**の整理と共有
- 3. 議論の発表
- 「正解」の導出ではなく、**議論と発見が趣旨**！

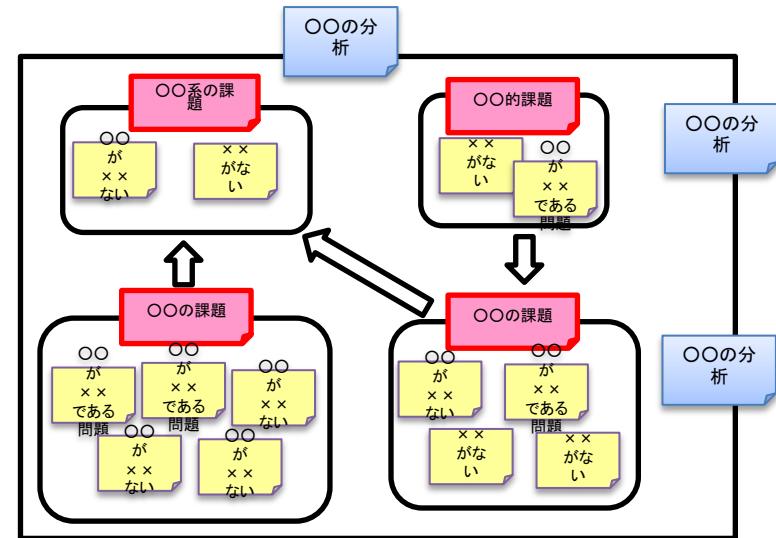
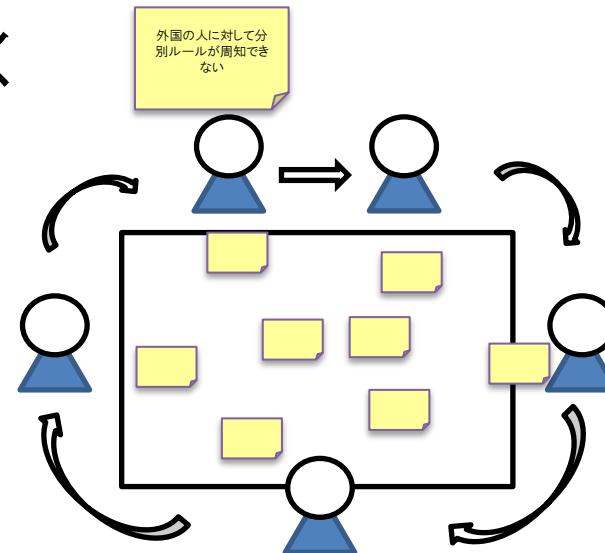
## 2. 2-1 グループワークの全体の流れ

関心のあるごみ関連の課題・問題を書く

一人ずつ順番に、意見を発表しながら、付箋を貼付

意見のまとめ(グループ)をつくり、グループタイトルをつける。課題の関連を議論

自分の専門性・やってきたこと・これから身に着けたいこと、を関連する課題の近くに張り付け



## 2. 2-2 グループワークの流れ

①関心のあるごみ関連の課題・問題を付箋に書く



②意見を説明し、付箋を貼付



関心・問題  
意見の出し合い

## 2. 2-3 グループワークの流れ

③貼り付け後、意見のまとめをつくる



グループのまとめにタイトルを付ける

## 2. 2-3 グループワークの流れ

### ④課題の関連などを議論



### ④専門性を関連があるところに貼付



自分たちの専  
門性

## 2. 2-3 完成！と議論内容を発表

関心・問題意識  
意見の出し合い

問題のまとめ

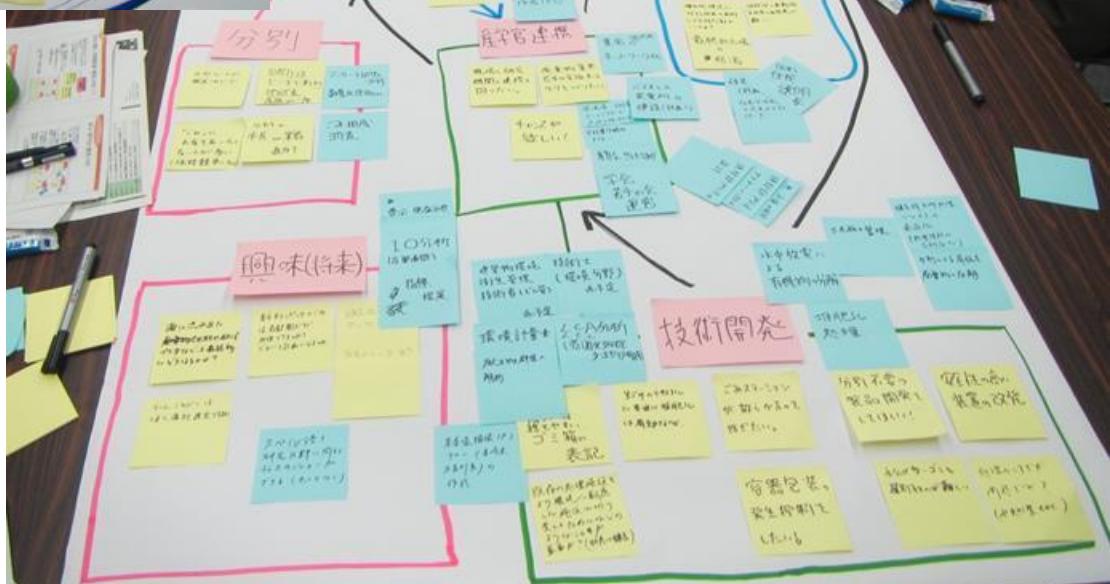
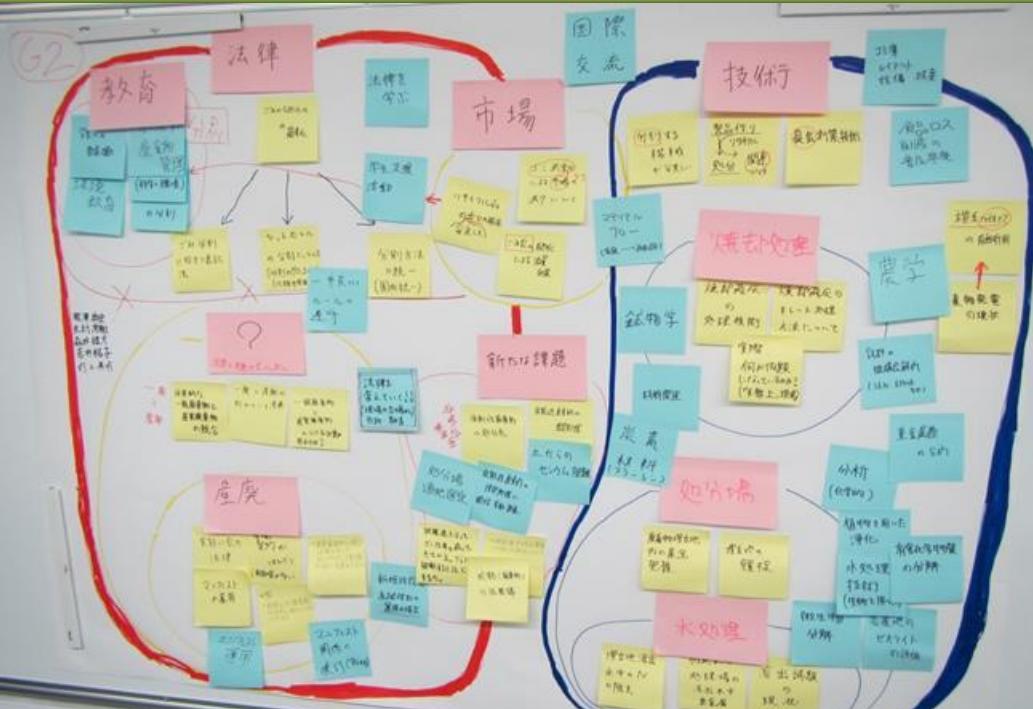
課題の関連

自分たちの専門性

課題との関連  
付け



## 2. 2-3 完成！と議論内容を発表



# 結果に移る前に……

3グループ分かれて議論・発表してもらったが…

①専門性(全回答)を類型化

⇒ 今回の参加者属性として整理

②問題(全回答)を類型化

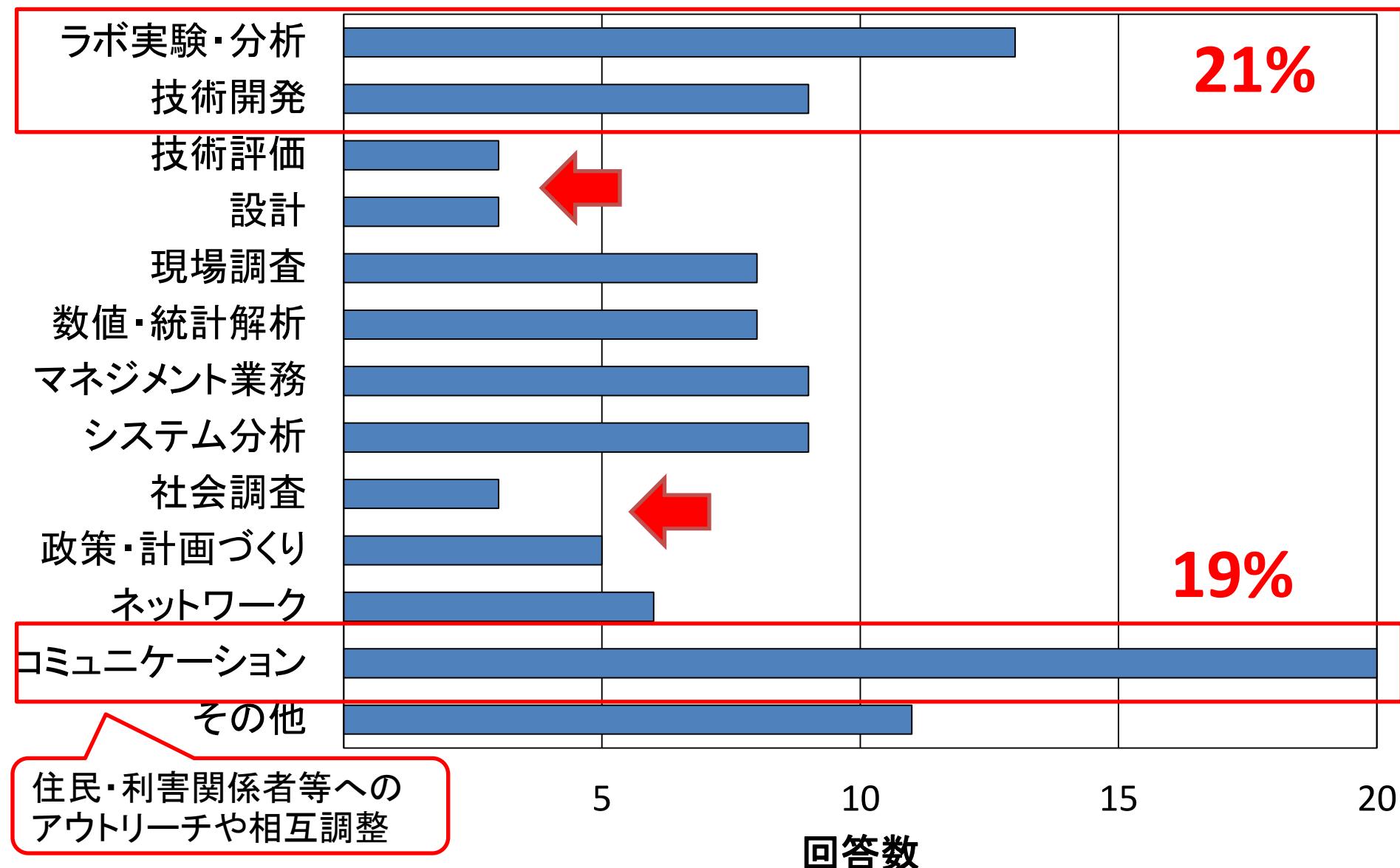
⇒若手(今回の参加者)の問題意識として整理

## 2. 4-1 参加者の専門性(経験・ノウハウ):類型

3グループ(24名)から得られた107個の回答を類型化

- ①技術開発:処理・処分にかかる技術(と材料)の開発
- ②ラボ実験・分析:実験や分析の手法
- ③現場調査:ごみ組成調査や現場モニタリング、サンプリング
- ④技術評価:技術適用に係る評価
- ⑤設計:施設や機材の設計
- ⑥マネジメント業務:廃棄物処理の実務に係る管理業務
- ⑦数値・統計解析:統計・数理解析およびその基礎となるデータ処理
- ⑧システム分析:LCA、MFA、B/C分析等のシステム分析手法
- ⑨社会調査:アンケート調査やインタビュー調査に係るもの
- ⑩政策・計画づくり:政策立案や計画策定の経験等
- ⑪ネットワーク:人的交流に係る実務経験(委員会運営など)
- ⑫コミュニケーション:住民・利害関係者等へのアウトリーチや相互調整
- ⑬その他:専門の基礎となる学問や、保有資格、今後の決意表明等

## 2. 4-2 参加者の専門性の分布



### 3. 1 関心・問題意識: 類型

3グループ(24名)から得られた109個の回答を類型化

#### I. 個別課題・関心(個人が抱える課題)

知識習得・経験、社会ニーズの把握、現象の科学的解明

#### II. ごみ処理に関する課題

現行法・制度の見直し・策定

廃棄物管理・計画の策定

ごみの発生抑制

リサイクル促進

分別方法の見直し

処理技術の確立

用地確保が困難

施策・技術評価

#### III. 業界に関する課題

イメージ改善、市場の縮小、連携の必要性

### 3. 2 関心・問題意識: 類型分布

I.

#### 個別課題・興味



10%

28%

17%

II.

#### リサイクル促進

教育の実施

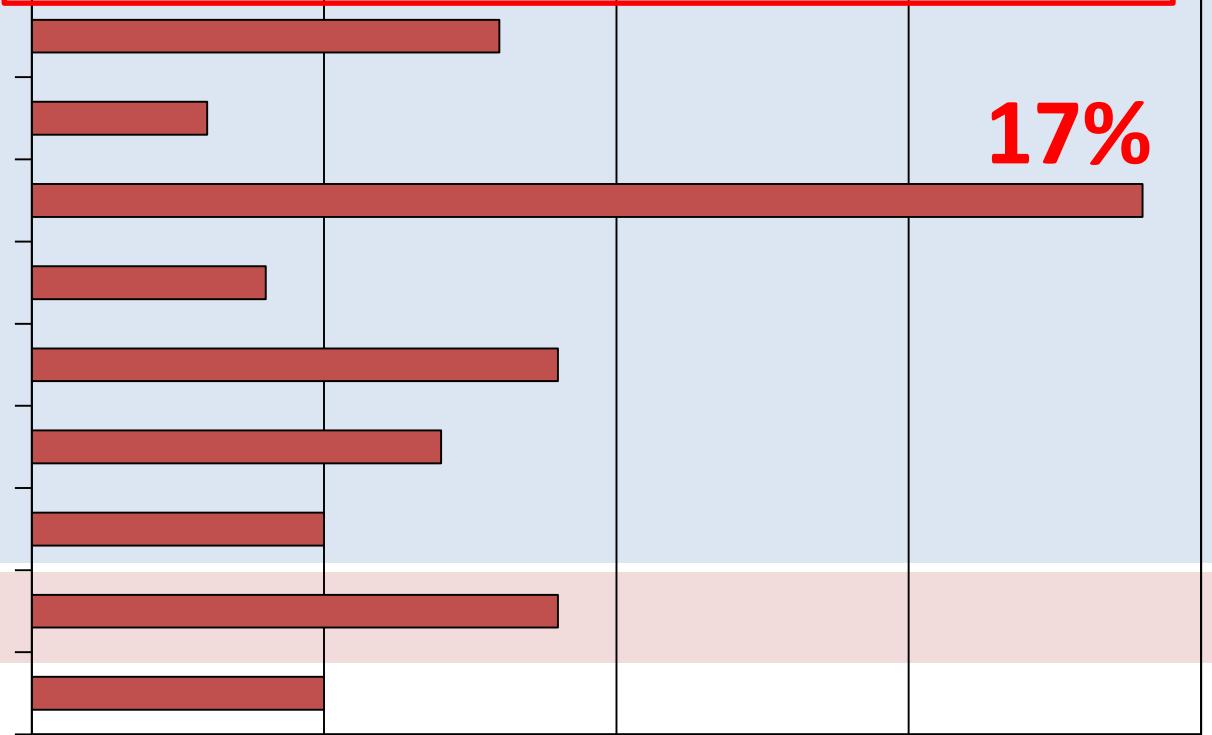
処理技術の確立

用地確保が困難

施策・技術評価

業界課題

その他



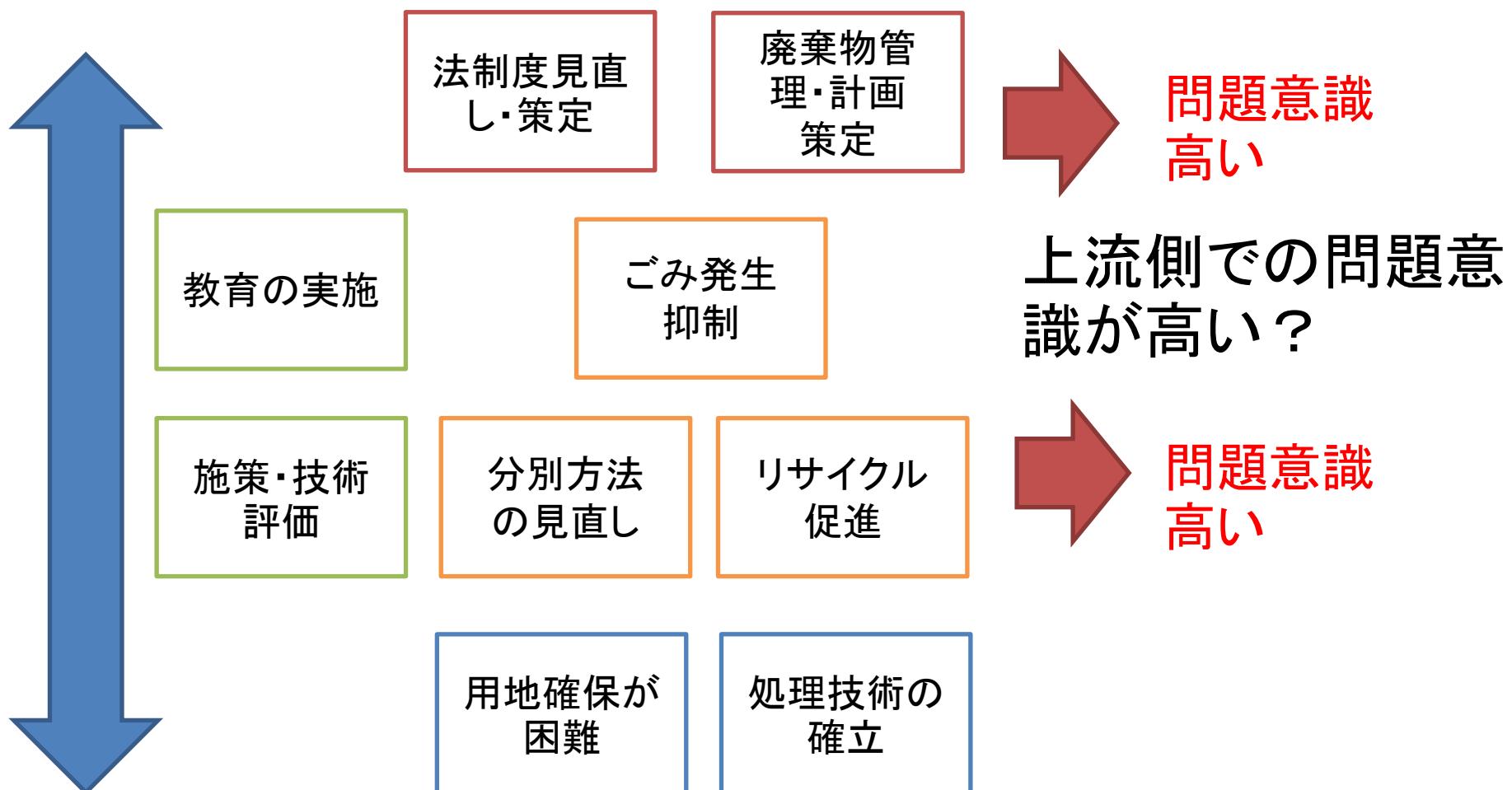
III.



回答数

### 3. 3 Ⅱ. ごみ処理に関する課題の構造

## ごみ処理システムの上流



## ごみ処理システムの下流

### 3. 4-1 具体的問題意識の紹介

#### 現行法・制度の見直し・策定

##### 廃棄物の定義問題

一廃と産廃区分が必要か？

実務(コストなど)に見合った制度が必要  
新たな政策の必要性

太陽光パネルや衣類リサイクル  
外国人や高齢者に対応

#### 廃棄物管理・計画の策定

##### 今後のごみ処理の在り方

東京オリンピックの発生ごみ、  
放置住宅・太陽光パネル

### 3. 4-2 具体的問題意識の紹介

#### リサイクルの促進 分別向上

分別徹底、マナー・意識改革

#### 商品開発・分別技術の確立

分別不要の商品開発、ごみ箱表記の改善

#### 再利用先の確保

#### 分別方法の見直し

分別の業者間・地域間の差是正、統一  
簡素化

### 3. 5 まとめ(若手の問題意識に関する特徴)

大まかに以下の三つに分けられる

- ・ 各個人が抱える課題
- ・ ごみ処理に関する課題
- ・ 業界に関する課題

ごみ処理に関する課題では、

上流側(法制度の見直しや廃棄物管理・計画の策定、リサイクル促進)に関する意識が高い。

⇒以下の属性が影響した可能性も。

- ・ 収集処理やコンサルティングに係る人が多い
- ・ 技術評価・設計、社会調査、政策・計画づくりを経験している人が少なかった

## 4. 1 グループ発表～若手が何ができるか～

グループの議論でも

「法制度の見直しや廃棄物管理・計画の策定」に関して問題意識強いという結論

技術的な立場から**上流(法制度)側へフィードバック**

制度と技術の**交流、教育**を通して法制度を変える

**産官学の連携**して、法改正や業界課題に取り組む

## 5. 1 アンケート結果\_スコア(平均)表

回答者数: 18名

- 1: まったく思わない
- 2: あまり思わない
- 3: どちらとも言えない
- 4: 少し思う
- 5: かなり思う

セミナーが業務に役立つか	4.4
自分の <b>専門性を再認識する</b> きっかけになった	4.2
他人の若手メンバーのニーズ を知ることができた	4.5
グループワークの設計は適切 であった	4.6
若手同士の <b>ネットワークづくり</b> に有効	4.7
また参加したいか	4.8

## 5. 2 アンケート結果\_感想・改善点

### 参加してよかったです

- いろいろな立場・視点の意見を聞いて刺激になった
- 議論が盛り上がって楽しかった
- 課題がわかりやすい・再認識できた

### 改善点

- 会場が狭い
- グループワーク(考える・意見を述べる)の時間を多くしてほしい
- 全体的な時間をコンパクトにしてほしい
- 環境省・自治体の関係者に参加してほしい